

「レジリエンス・ワークショップ」を開催しました (2015/3/16)

テーマ：東日本大震災、レジリエンス、ビッグデータ、IT&ICT、スマートシティ
場所：東北大学川内北キャンパス

第3回国連防災世界会議のパブリックフォーラムの一つとして、3月16日(月)(9:30~17:30)、東北大学川内北キャンパスにおいて、災害科学国際研究所・東北大学流体科学研究所・日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所の共催による「レジリエンス・ワークショップ～しなやかな防災・減災を実現する科学技術と社会実装～」を開催しました。神戸市、(独)科学技術振興機構、(株)河北新報社、東北電力(株)、特定非営利活動法人国際レスキューシステム研究機構、東北大学極限ロボティクス国際研究センター、経済産業省産学イノベーション促進事業・最先端電池基盤技術コンソーシアムにも後援していただきました。

本ワークショップは、日本工学会・会長でIHI顧問の佐藤順一氏や、レジリエンスエンジニアリングの第一人者であるエリック・ホルナゲル教授による基調講演を含む10件の発表とパネルディスカッション、及び別室に催されたテクノロジー・デモ&パネル展示により構成され、一般市民を含むのべ約100名が参加しました。当研究所からは、奥村誠教授(副所長)、寺田賢二郎教授(地域・都市再生研究部門)、高橋信教授(地域・都市再生研究部門、東北大学大学院工学研究科)、杉浦元亮准教授(人間・社会対応研究部門、東北大学加齢医学研究所)が参加しました。寺田賢二郎教授の挨拶に続き、佐藤順一氏、寒川誠二教授(東北大学流体科学研究所)、吉田和哉教授(東北大学工学研究科)、森本典繁氏(日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所・所長)、奥村誠教授、Erick Hollnagel教授、土屋範芳教授(東北大学環境科学研究科)、土井章氏(国際航業株式会社・執行役員)、杉浦元亮准教授、渡辺日出雄氏(日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所・所長)が、レジリエントな社会を実現するためのこれまでの取り組みなどについて発表しました。これらに続くパネル討論では、モデレータである奥村誠教授が司会を務め、パネリストの板橋恵子氏(FM仙台 防災・減災プロデューサー)、榊原彰氏(日本アイ・ビー・エム(株) マーター・シティ事業 技術理事)、佐藤順一氏、高橋信教授、藤田玲子氏(日本原子力学会会長、科学技術振興機構(JST))、室山哲也氏(NHK解説委員)が、レジリエンスの基礎となる科学技術や、多様な専門家と一般市民の間のコミュニケーションについて議論を行いました。最後に、日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所 所長の渡辺日出雄氏の挨拶で閉会しました。



Erick Hollnagel 氏
(南デンマーク大学・教授)



パネルディスカッション)
(左から板橋氏・室山氏・榊原氏・藤田氏・佐藤氏・高橋氏)